

ガバナー一月信

2010.1/1
Vol.

7



2009～2010年度 国際ロータリー第2650地区テーマ

育てよう、人

千玄室 裏千家今日庵大宗匠 ご染筆



ROTARY INTERNATIONAL
DISTRICT 2650
2009～2010

目次 ● CONTENTS

ガバナーメッセージ	2
クラブ指導者育成セミナー	3～5
ロータリー理解推進月間に因んで	6～7
新世代育成シンポジウム	8
地区大会講師に王貞治氏／ 「割れ窓理論」の実践	9
財団管理セミナー／うちの自慢	10
11月会員数の増減と出席率表	11
月信編集室から	12



◇ロータリーの友へ



R I 第 2650 地区ロータリアンの皆様、あけましておめでとうございます。

昨年の風はとりわけ冷たく感じられました。それぞれの職業の場で、たいへん苦闘されたこととお察しいたします。

いろいろな数字が現実の厳しさをものがたっていますが、今年は皆様にとりまして、いい風が吹いてほしいものだとして強く願っております。

それにしましても、昨年度(2008年～2009年)のロータリー財団地区別寄付額がロータリーの友2009年11月号に発表されましたが、当地区は日本34地区中、群を抜いております(1,161,325米ドル)。100万ドルを超える地区は当地区のみであります。ちなみに第2位は第2770地区(埼玉南東)の87万ドル強であ

ります。日本におけるロータリー財団の7.5%を皆さんが担っておられるわけですから、いかに当地区が財団にとって大きな働きをされておられるかがお分かりいただけると思います。

私は昨年の7月を皮切りに12月まで地区の全クラブ(96クラブ)を訪問させていただきました。お一人お一人にお会いして、ロータリーが一段と親しく身近に感じられるようになりました。大きな感動を与えられました。皆さんは職業奉仕を通して地域に深く関わり、本当に貴重な時間と大切なお金を捧げておられることに頭の下がる思いをしました。

HE PROFITS MOST WHO SERVES BEST
最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる。

R I の第2標語(最近では They profit most who serve best が使われています)、であります。洋の東西を問わず人生の真理であります。ロータリーライフを通して、好意と友情(GOOD WILL, BETTER FRIENDSHIPS)の仲間に関われ、今年も職業奉仕を金字塔に歩み続けて行きたいものであります。

皆様の日々の歩みのうえに幸多かれと心から祈っております。

国際ロータリー第2650地区
2009～2010年度

ガバナー 富田 謙 三



クラブ指導者育成セミナー

初のクラブ指導者育成セミナー

R I 第2650地区の地区研修委員会は昨年11月28日、京都市内で第一回クラブ指導者育成セミナーを開きました。クラブレベルのロータリー研修を強化充実させクラブ活性化とクラブ組織強化をはかるため将来の指導者を育成するためのもので、この日はクラブ会長、会長エレクトや会長経験者などクラブのリーダー的存在の人たち約200人が出席。もともと「クラブ研修リーダー」の任命は2006年11月のR I 理事会で推奨するよう決まりましたが、今年度になってR I 会長が改めて要請したのと、富田謙三ガバナーが「育てよう、人。」を地区テーマとして掲げたことから、初めてクラブ指導者育成セミナーが開かれました。

最初にR I 元理事でロータリー日本財団会長の千玄室・地区特別顧問が基調講演、続いて第2650地区パストガバナーの福井正典氏、神谷保男氏、平井義久氏の三人がそれぞれ研修リーダーについて講演されました。講演内容（概要）について紹介します。



基調講演

「育てよう、人。」（講演要旨）

R I 元理事、ロータリー日本財団会長

R I 第2650地区特別顧問 **千 玄室 氏**



ロータリーは人間にとって素晴らしい栄養剤である。反面、ロータリーに対しては思い、悩んでおられることと思います。私自身、55年間在籍していて、考えれば考えるほどわからなくなります。R I 本部でもいろいろの役に就いて表から、裏からみてきましたが、中に入れば入るほどわからなくなり、ロータリーは国際的なだけものではないでしょうか。

ロータリーでよく使われる「サービス」ですが、日本ではもっとも理解されない言葉で

す。あえて日本語を当てはめるなら「布施」という言葉で、他の人のために手を差し伸べるということではないでしょうか。ロータリーを日本にもってきた米山梅吉さんもこの「サービス」の説明にずいぶん困られたと聞いています。

ロータリーの歴史を見ると、ロータリーは「親睦」から始まり、お互いの職業を尊び、尊重することだと考えます。ポール・ハリスは「互惠」という言葉を使っていますが、職業という上に立った個人レベルの道徳的倫理で、みんなそれなりの人格を持ち、人間性を持っています。だからロータリーはいろいろ



クラブ指導者育成セミナー

の職業の違う人が集まって、お互いを引き立てていくことができるのです。こうした小さい流れが、とうとうと流れていくようにしたのです。でも、すそ野が大きく広がっていくと、わからないままロータリーに入ってくる人が多くなってきました。

国際ロータリーの基はクラブであり、メンバーなのです。メンバーがクラブを支えてきました。ところが、組織の拡大についてはばかり言ってきたため、レベルの低下が議論され

るようになり、ついには組織の見直しが求められ、2006年11月にクラブトレーナーを作って、既存メンバーのスタディ（勉強）とストロング（強化）はかろうとしたのです。クラブは人間性について勉強するところ。“入りて学べ”の言葉があるように、どの会員も聞く耳を持ち、見る目を持っていただきたい。クラブの基礎は会員であり、いいクラブづくりのため人を育てること、これはわれわれの次の世代への責任なのです。

クラブのビジョン（長期計画）の立案目標設定と責任分担

（講演要旨とレジメから）



○クラブ研修リーダーの任命と資格要件

クラブ会長エレクトが次年度のクラブ研修リーダーを1名任命する。(クラブによってはサブリーダーも任命してよい)。他の役職と兼務も可。

任期は1年、連続は3年まで。資格要件は研修技能のあるパスト会長、理事会メンバー、ロータリー情報委員長など。

○**任務と責務**

- 自分のクラブの現状を認識、把握する
- クラブの年間研修計画を立案し実施する
- クラブ理事会および各委員会と協力する
- 地区研修委員会、クラブ担当のガバナー補佐、地区ガバナーと協力する
- 「クラブ指導力育成セミナー」を計画、実施する。

○研修企画立案と実施にあたって…クラブ長期計画（ビジョン作り）の手順

- 各クラブ会員の現状把握のためのアンケート調査

パストガバナー 地区研修委員

次年度地区研修委員長 神谷 保男

(a)会員満足度測定（全会員対象）…調査内容については近日中にクラブあてお送りします。6月15日までにガバナー事務所へ提出、次年度ガバナー公式訪問に役立てていただきたい。

(b)クラブ活力測定（理事・役員対象）

- 上記の結果を踏まえてクラブ全会員参加のもと、目標実現のため難しい点、やさしい点を話し合う
- クラブの5年後の理想像を自由討論し、目標を定める
- 計画の項目が出来た段階で優先順位を決める
- 計画実行に向けて具体的行動方法を話し合い、年次目標と項目別に責任者を決める
- 目標の実現の測定方法と期日について話し合う
- クラブとしての「改革提言」をまとめる



クラブ指導者育成セミナー

クラブ研修リーダーの任命について

(講演要旨とレジメから)

パストガバナー 地区研修委員長 平井 義久



クラブ研修リーダー(指導者)はクラブを強化するものである。伝統を守りながら新しいものを創造しなければならない。クラブが良くなるか

どうかはクラブ会長と研修リーダーの責任である。

クラブ指導力育成セミナーで推奨されるテーマは(RI提示項目)

- コミュニケーションの技能
- 指導(リーダーシップ)のスタイル
- ボランティアを指導し、動機づける方法
- 個人(メンター)指導

- 時間管理
- 目標の設定と責任の分担
- 長期計画の立案
- 倫理と四つのテスト
- 合意(コンセンサス)の構築
- チームワーク
- クラブのビジョン(あるべきクラブ像)
- 効果的な広報
- 国際奉仕・新世代奉仕プログラム
- ロータリー財団・米山奨学会のプログラム
- ロータリーの奉仕理念、職業奉仕
- 地域問題
- 国際ロータリー年次テーマ、強調事項

ロータリーの基本理念と職業倫理

(講演要旨とレジメから)

パストガバナー 地区研修委員 福井 正典



ロータリーの基本理念

1. ロータリー綱領
2. 職業奉仕
3. 倫理
4. 職業宣言

【職業宣言】

- 職業も奉仕の機会であると考え
- 職業の倫理的規範、国の法律、地域社会の道徳基準に対し名実ともに忠実であること
- 職業の品位を保ち、自ら選んだ職業において最高度の倫理基準を推進するために全力を尽くすこと
- 雇主、従業員、同僚、同業者、顧客、公衆、

その他事業または専門職務上関係を持つすべての人々に対し公正であること

- 社会に役立つすべての仕事に対しそれに伴う名誉を認め敬意を表すること
- 自己の職業上の才能を捧げて青少年に機会を開き、他者の特別なニーズに応え、地域社会の生活の質を高めること
- 広告に際して、また自己の事業または専門職務について人々に伝える際には、正直を貫くこと
- 事業または専門職務上の関係において、普通には得られない便宜ないし特典を、同僚ロータリアンに求めたり、与えたりしないこと

おわび：パストガバナーの神谷様、平井様、福井様にはたくさんの内容ある講演をいただきましたが、重複する部分については割愛させていただきました。申し訳ありません。



育てよう、人。

1月は「ロータリー理解推進月間」です。会員にロータリーについて知識と理解を一層深めてもらい、同時にロータリアン以外の一般の人々にもロータリーのことをよく知ってもらうためのプログラムを実施する月間とされています。しかし、昨今、ロータリアン自身が犯罪や不祥事を起こすことが目につき、ロータリアンの質の向上が求められています。RI会長は会員について「量より質」を言われていますし、2650地区の富田ガバナーは「育てよう、人。」を地区テーマに掲げて公式訪問でもロータリアンの育成を訴えてこられました。

歴史を振り返ろう

地区ガバナー補佐 刀根 莊兵衛 (敦賀RC)



20世紀初頭、アメリカでは数多くの社交クラブが作られ、また消えていった。実際、ポール・ハリス自身も当時いくつかの社交クラブに属していた。ある時、ポールはこの殺伐としたシカゴの大都会の中で、心から語り合える友を求めて、ロータリークラブ設立を思い立った。しかし、これとて星の数ある社交クラブの一つにしか過ぎなかった。いつ消えてもおかしくない不安定な状況の中での船出だったのだ。

設立当初のロータリークラブはこの親睦という大きな目的に加えて、会員同士の物質的相互扶助（取引）が提案され、これにより会

員間に大きなメリットが生まれた。これが初期のロータリー発展の原動力となり、また大きな魅力でもあった。

20世紀初頭のアメリカの世相は、いかにして人を出し抜いてでも儲けようかと言う、弱肉強食の競争に明け暮れていた時代でもあった。だからこそ、親睦と互惠取引というメリットを掲げたロータリーが会員を飛躍的に増加させていったのだろう。

ところで、こんな利己的な初期のロータリークラブが百年を越え存続、今日も発展しているのはなぜだろうか。ロータリーが当初の目的である会員の親睦と相互扶助のみを目的とした社交クラブの域に留まっていたとしたら、きっと他の社交クラブ同様、とうに寿命は尽きていたことだろう。こう考えると、ロータリーに奉仕（Service）、つまり利他と言う概念が生まれたからこそ、今日まで生き残ることができたのではないかと思う。

行き過ぎた市場資本主義が大きな社会的矛盾を生んでいる今日、我々は今一度ロータリーの歴史を振り返りながら、奉仕理念の研鑽と真のフェロウシップを育むクラブ運営を目指さなければならないのではないかと考えている。



育て未来へ、育む魅力

地区ロータリー情報委員会 委員長 奥村 照夫 (京都八幡RC)



1月はロータリー理解推進月間です。後期に向かって奉仕と親睦の両輪がバランスよく作動しているか現状を見極め、検討する時期でもあります。

富田ガバナーが示された地区テーマは「育てよう、人。」です。ロータリーは出席から始まります。出会いは人を育てます。育てることは育てられること。どのように育ててきたのか、それはロータリーの根幹をなすもので、未来へと引き継がれていきます。当委員会の年間活動は、1M単位の委員長会議。京都南部は2班に分けて、計6回開催。福井、滋賀、奈良地区全員にアンケートを実施、地

区内全クラブにアンケート実施。クラブへの卓話、地区大会2日目の「新会員セミナー」開催等を行い、ロータリーの啓蒙と情報提供・交換に努めています。情報委員会はクラブの潤滑油であり、奉仕と親睦の両輪をスムーズに動かす一助として、時には指導や苦言を呈し、クラブに活力を与え、発展に寄与する要の委員会であります。今年の委員長会議のテーマは「育て未来へ、育む魅力」として、細部にわたり議論を重ねました。

ロータリーの未来は奉仕と親睦を礎にロータリアンの魅力から生まれます。反面、社会の人々から興味をもって見られています。それには自身を律し、心豊かに笑顔と感謝をもってロータリーを楽しむことです。楽しくするのは貴方です。奉仕への心の扉が開かれ、絆が生まれ、素晴らしい感動とともにロータリーの神髄に触れることができます。いままで見えなかったものが見えてきます。それがロータリーの世界であり、未来です。

今期も早や半年が過ぎました。ガバナー公式訪問も終え、これからが正念場です。五気＝「元気、勇気、ヤル気、根気、和気」をもって地域社会から世界へ、奉仕と親睦の両輪を力を合わせ、回しましょう。

◎ガバナーインフォメーション◎

クラブ研修リーダー

クラブ指導者とも言われています。2006年のR1理事会でクラブ研修リーダー (Club Trainer) の任命が推奨されました。R1第2650地区でも委員会ができたものの、実際の動きはありませんでしたが、今年度、初めてクラブ指導者育成セミナー (3～5頁参照) が開催されました。

耳慣れない言葉に参加者らも理解に苦しむところがありました。だれが、だれを、どのように任命して、クラブ内での位置と会長との関係は…など質問が相次ぎました。いずれもクラブの問題なのでセミナー講師らも「こうしなさい」との回答はされませんでした。クラブ内で研修リーダー (指導者) を任命するよう強調されました。

地区大会で2回目のセミナーを開きます。それまでにクラブ内で十分に議論して、わからない点があれば、そのとき質してください。



◇新世代育成シンポ開く

ロータリー100周年を機にR I第2650地区に設立された新世代育成基金をもっと知ってもらおうとその管理委員会である同基金特別委員会では昨年12月5日、京都市内で新世代育成シンポジウムを開きました。はじめに富田謙三ガバナーが「本日のシンポジウムを通じて新世代への事業の指針を作っていたきたい」とあいさつ、ついで太田和夫特別委員会委員長がシンポジウム開催の趣旨説明しました。

この日の基調講演は、R I第2660地区パストガバナーで本年度ロータリー財団学友ゾーンコーディネーターの井上暎夫氏で、「人とロータリーに育てられて“育てよう、人。”」をテーマに、自らの生き立ちを交えながら、これまでいかにロータリーと関わり、いかに多くの人と付き合い合ってきたかを話し、「素晴らしいロータリーを新世代に教えてやっていただきたい」と訴えました。

これに続いて、井上氏とともに地区の橋本長平パストガバナー、熊本國勝ガバナー補佐、西田晴彦新世代委員長の三人が壇上に上がり、小林哲夫特別委員会副委員長の進行で意見交換。パストガバナーらがこれまでの新世代との関わりを紹介しながら、都度、井上氏の意見を聞くという進め方で行われました。

なお、新世代育成基金特別委員会の具体的な活動は



- ①新世代の育成活動に貢献顕著は団体や個人を表彰しまた奨励金を贈呈する
 - ②上記の団体・個人を地区内各クラブの推薦を受けてその活動内容を審査し受賞者を決定する
 - ③年1回地区内ロータリアンを対象として新世代シンポジウムを開催する
- となっています。本年度の基金の申請締め切りは2010年1月末です。委員会によると、2005年からこれまで申請してきたのは計52クラブで、もっと参加してほしいとのことです。



◇地区大会講師に王貞治氏

今年4月3日、4日の両日、京都・宝ヶ池の国立京都国際会館で開かれるR1第2650地区の2009～2010年度地区大会の記念講演講師に元プロ野球巨人軍の王貞治氏が正式に決まりました。王氏が講演するのは大会2日目の本会議（午後1時から4時の予定）において。



記念講演 王貞治氏

- 福岡ソフトバンクホークス株式会社 取締役会長
- 財団法人世界少年野球推進財団 理事長
- 日本プロフェッショナル野球組織 コミッショナー特別顧問
- 野球特別大使(外務省委嘱)

【プロフィール】

早稲田実業から読売巨人軍に入団。一本足打法を完成させ、通算15回、本塁打王を独占。1973、1974年には連続の三冠王。1977年9月3日にはハンク・アーロンの大リーグ本塁打記録を破る756号を記録、生涯通算本塁打868号。巨人軍監督、福岡ダイエーホークス（現福岡ソフトバンクホークス）監督を歴任。リーグ優勝3回、日本シリーズ優勝2回。2006年「第1回WBC世界大会」日本代表チーム監督として、日本を初代チャンピオンへと導いた。

◇京都市内24RCが共同奉仕



京都南ロータリークラブの提唱で、京都市内24RCが共同事業として実施したもので、ロータリアンや家族、ローターアクト、さらには一般の人たち約300人が参加しました。

京都駅前で行われた開会式では、西村勝京都ロータリークラブ会長があいさつ、山田啓二京都府知事、門川大作京都市長から激励を受けて、市内5ブロックに分かれて奉仕活動を開始。

割れた窓ガラスをそのままにしておくと、建物だけでなく、地域全体が荒れてしまうという「割れ窓理論」というのがあり、その実践として街の落書きを消したり、ゴミを拾うなどの行動が昨年11月22日、京都市内一帯で行われました。

文字を消すスプレーを壁や電柱、看板の落書きに吹きつけ、ぬぐい取って回ったほか、手の空いた者は路上のゴミを拾って回りました。



地区ロータリー財団補助金管理セミナー開く

来年度からロータリー財団のパイロット事業に参加することを受けて地区ロータリー財団委員会は11月21日、京都商工会議所で地区ロータリー財団補助金管理セミナーを開きました。

平井義久パストガバナーの点鐘で始まったセミナーは、はじめにパストガバナーの宮崎茂和地区ロータリー財団委員長が「財団未来の夢計画 パイロット地区に選ばれて」をテーマに講演。「本日のセミナーでしっかり勉強してロータリアンとして確固たる理念を持ちながら奉仕し、財団からの補助金を充分

に駆使して、世界で、地域社会でよいことをしようではありませんか」と訴えました。続いて、財団補助金・ポリオプラス委員会、G. S. E. 委員会、財団奨学金・財団学友・世界平和フェロシップ委員会、財団年次寄付・財団恒久寄金委員会の地区財団関係各委員会から、パイロット地区になってからの新補助金制度と参加資格や職業研修チーム、奨学金との関わりなどについて説明がありました。参加者はメモを取りながら熱心に聞き入っていました。

うちの
自慢

補助金が出る「虎の会」

大和高田RC 会長 杉田 博



関西には阪神タイガースを応援する虎ファンが多数おりますが、我がクラブも例外ではない。枳岡会員をはじめ数人が甲子園の年間予約席をお持ちなので、我々は年間に何回かその恩恵を蒙って甲子園に応援に行く。ダメ虎の連中も2003年、2005年の優勝で常勝チームと錯覚し、3年位前から

14~15人のメンバーで「虎の会」をつくって同好会の仲間に入れてもらった。最近はシーズンが終わればいつも残念会である。最近は龍や獅子のファンも出席して騒がしいことこの上もない。死ぬまでにもう一度、優勝の夢を見たいものである。

写真は2008年の世界大会に出席した時の、ボストンにあるFenway ParkでのBoston Red Soxを応援する我が2人の女性会員と家族の姿です。シーズン中は専ら監督のように

作戦を立て応援に勤しんでいる楽しい、アホな? 「虎の会」のメンバー達である。他にはゴルフ、能楽、俳句、囲碁、インターネット、麻雀、写真、グルメ会、史跡鑑賞会、茶道等がある。

わがクラブでは、これら同好会に補助金が出ており、「虎の会」も例外ではない。



■ご覧になってください

09-10年度地区ホームページ

<http://rid2650.gr.jp>

地区の動きは「新着情報」で

09-10年度R I 第2650地区のホームページを公開しています。地区の概要、組織、地区内クラブ、年間行事予定、地区大会概要、例会変更情報など会員の皆さんがロータリー活動をされるとき必要な情報が掲載されています。

これまでの月信発行が会員の増減数、出席率の集計との関係で、記事内容と掲載日の間に相当のタイムラグがありましたが、これを解消するため「新着情報」として素早く公開してニュース性を持たせています。ぜひご覧ください。

■会員の動き

◇11月の新入会員

クラブ	氏名	職業分類
京都	森口 哲行	地方銀行
京都西山	越川 哲也	バイオ燃料製造・販売
京都紫竹	曾根 寛	弁護士
あすか	長崎 行生	ホテル

クラブ	氏名	職業分類
五條	榊井 喜徳	商業銀行
彦根	青木 竺峰	仏教
大津	稲毛 隆文	証券貯蓄
滋賀湖北	高見 哲也	不動産売買仲介

■クラブの名称変更

「滋賀湖北RC」が昨年12月15日から「長浜北RC」に名称を変更しました。事務所住所、電話番号、例会場は従来と変更ありません。

◇訂正

12月発行のガバナー月信3～5ページの枠見出しは「家族月間に因んで」の間違いでした。訂正します。

■編集後記

○富田ガバナーのクラブ公式訪問がようやく終了しました。12月16日に京都RCを訪ねられましたが、自クラブの例会出席は就任以来初めてだったそうです。地区内全96クラブを訪問することはそれほど大変なことだったのです。本当にご苦労様でした。

○公式訪問終了とともに、半年が過ぎました。後期へ折り返すわけですが、ガバナー事務所では京都RCとともに4月3日、4日の地区大会に向けて本格的に動

きはじめました。今から心配しても仕方がないのですが、庭園での園遊会（交流会）を予定しており、気になるのはやはり当日の天気。雨対策も考えています。

○年末ということで、会員数の増減については締め切りをいつもより若干早くお願いしました。というのも、各クラブとも事務所が開いているのは25日までと予想、休みになると宅配便を受け取ってもらえないこともあり、当日までに着くよう考えたからです。



Kyoto/Nara/Fukui/Shiga

R.I.D.2650

2009-2010

国際ロータリー第2650地区

2009-2010年度 ガバナー 富田 謙三

■ガバナー事務所

〒600-8216 京都市下京区塩小路通烏丸西入東塩小路町614

新京都センタービル5階520号室

Tel.075-343-2650 Fax.075-343-2651

E-mail:gov09-10@rid2650.gr.jp